

明治10年に創立された中央区立十思小学校と、明治34年に創立された中央区立東華小学校のそれぞれの長い歴史と伝統を受け継ぎ、地域に根差した教育活動を展開する開校30年の日本橋小学校において、新しい教育活動に教職員が一丸となって挑戦していくため、以下の学校経営ビジョンを策定する。

## 1 日本橋小学校経営方針

新しい教育活動に挑戦し、日本橋小学校の教育目標を達成するため、校長として組織的な運営と効率的な業務管理を、以下の経営方針に基づいた教育活動を推進する。

### ＜日本橋小学校 教育目標＞

児童一人一人が個性や能力を発揮し、学校や地域社会の一員として

- 礼儀正しい子 きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子供
- よく考える子 創意工夫をこらし、主体的に学び続ける子供
- 健康な子 明るく、心身ともに健康な子供
- やりぬく子 勤労と責任を重んじ、何事にもねばり強く努力する子供

#### (1) 経営方針1 分かる授業を追求する（楽しい学校）

確かな児童理解に基づいた教材研究を最優先し、全ての児童が分かる楽しさと伸びる喜びを実感できる授業づくりに全力を注げるよう、教員が相互に授業技術を磨く風土を醸成し、教職の専門性が向上できるようにする。

#### (2) 経営方針2 授業規律・生活規律を徹底する（規律ある学校）

児童一人一人が自己の個性や能力を最大限に発揮し、自信をもって学習・生活できるよう、基本的な生活習慣の定着を図り、規律ある学校生活を徹底できるようにする。

#### (3) 経営方針3 新しい校風を創造する（愛される学校）

教職員のサービスの厳正に努めるとともに、保護者や地域の思いや願いに寄り添い、共によりよい学校を創造していこうとする機運を醸成できるようにする。

以上の経営方針を分かりやすい「スローガン（合言葉）」として表現し、教職員、保護者及び地域への浸透を図ることで、一丸となってよりよい学校づくりを推進していく。

#### 【スローガン（合言葉）】

スマイル日本橋「楽しい学校、規律ある学校、愛される学校」

## 2 日本橋小学校が目指す学校像

「1 日本橋小学校経営方針」に基づいた経営を着実に展開し、校長として以下の学校像の具現化を図り、児童も保護者も、地域も教職員も笑顔であふれる学校づくりを目指す。

### (1) 楽しい学校

ア 全ての児童が、主体的・対話的で深い学びをとおして、学習したことが分かる楽しさ、自分の能力が伸びる喜びを実感できる「楽しい学校」

イ 全教職員が、よりよい授業を追究することで、児童の分かる楽しさ、伸びる喜びを共有し、自身の喜びとすることができる「楽しい学校」

### (2) 規律ある学校

ア 全ての児童が、ルールやきまりは、学校生活をより豊かにするためにあることを理解し、自分たちで進んで守ろうとすることができる「規律ある学校」

イ 全教職員が、児童の人権を尊重し、児童と共に育つという意識をもつとともに、教育公務員として信用を失墜する行為を行わず、法令を遵守することができる「規律ある学校」

### (3) 愛される学校

ア 児童一人一人の役割や居場所が学校にあり、自分に自信をもつことで、「日本橋小学校で学んでよかった」と心から思ってもらえる、児童に「愛される学校」

イ 全教員が、専門職として本来の業務に専念でき、やり甲斐と自信をもって学習活動を展開できる職場環境を整備することで、「日本橋小学校に勤務できてよかった」と心から思ってもらえる、教職員に「愛される学校」

ウ 教職員とのきめ細かいコミュニケーションを基盤に、子供が学校での出来事を楽しそうに話し、毎日、学校へ行くことを心待ちにしている姿を見ることで、「日本橋小学校に子供を通わせてよかった」と心から言ってもらえる、保護者に「愛される学校」

エ 地域への適切な情報公開・発信と、児童の気持ちのよい挨拶や行動、地域との交流活動などを行うことで、「日本橋小学校が地域にあってよかった」と心から言ってもらえる、地域の方々に「愛される学校」

## 3 目指す学校像に迫るための行動指針

「2 日本橋小学校が目指す学校像」の具現化を図るため、校長として特に以下の項目について全教職員が意識して実行できるようにする。

### (1) 楽しい学校

ア 全ての教員が、「学習内容、学習活動、学習評価」の3つの視点から、分かる・で

きる授業改善に努めること。

イ 全ての授業に、「見通しと振り返り」の学習活動を確実に位置付け、児童の主体的な学びを促進すること。

ウ 全ての教科等において、「問題解決的な学習」を基本とした授業を展開し、児童の論理的・批判的な思考力の育成を図ること。

エ 全ての教員が、特別支援教育の視点を取り入れた誰にでも分かりやすい学習を目指し、ユニバーサルな授業づくりを追究すること。

オ 全ての教員が、「授業づくりと研究・修養は車の両輪」であるとの認識をもち、授業準備とともに、指導法に関わる研究に積極的に取り組む機会を確保すること。

## (2) 規律ある学校

ア 全ての教員が、厳しい指導でも受け入れられる深い信頼関係を児童と築くため、授業時間はもとより、登下校時、休み時間、給食・掃除時間等、児童が学校にいる時間は、原則として担任、専科指導教員など全員が児童と共に過ごすようにすること。

イ 全ての児童が守るべき授業規律に関わる行動指針「日小学習ルール8」の定着を図るとともに、家庭・地域へも理解を求め、より実効性を高めること。

### <日小学習ルール8>

#### 学習環境の整備、時間厳守、挨拶励行、コミュニケーション など

ウ 全ての教員が、「ダメなことはダメ」と毅然とした指導と、「なぜダメなのか」と考えさせる学習とのメリハリある対応を徹底すること。

エ 全ての教職員で、定期的な情報交換の機会を設定するなど、児童理解に関わる情報を共有し、担任一人で抱え込まず、一丸となって行動できる体制を確立すること。

オ 全ての教職員と保護者、地域、関係機関等とで、連携を密にし、児童の問題行動などについて英知を結集した対応を推進すること。

カ 全ての教育活動において、児童が相互に力を合わせ、粘り強く行動し、目的を成し遂げる体験を積み重ねることで、児童の自己達成感・自己肯定感を育成すること。

キ 全ての教職員を対象に、日常的なコミュニケーションを図り、服務事故の未然防止と早期発見に努めるとともに、懲戒処分の事例を基に機会を捉えて校内研修を実施する。

## (3) 愛される学校

ア 全ての教員が、全教育活動を通し、児童一人一人に学校の一員、地域の一員としての意識を高め、歴史と伝統ある学校・地域への愛情を深めること。

イ 全ての教職員が、30周年行事のキャッチコピー「だいき にほんばし」の普及を通し、日本橋小学校が一致団結して伝統を受け継ぎ、未来を創造しようとしている姿勢を地域社会に積極的にアピールすること。

- ウ 全ての教職員が、学校生活の様子について児童の成長の様子や教職員の熱心に活動する姿など、「日本橋小学校らしさ」を積極的に家庭や地域に公開・発信すること。
- エ 全ての教科等において、可能な限り地域の方々に授業や学校行事などに関わってもらふ機会を意図的に設定するよう努めるとともに、地域教材の開発を進め、活用を図ること。
- オ 地域の行事に関する情報を全教職員に提供し、積極的な参加を呼び掛けることで、地域との信頼関係をより深められるようにすること。
- カ 全ての教職員の理解と協力のもと、会議の精選や効率的な業務分担など「学校における働き方改革」を着実に進め、専門職としての教員本来の業務に専念できる時間を確保することで、教職員一人一人の意欲を引き出すこと。

#### 4 学校安全の推進

- (1) 「自分の命は自分で守る」ための安全教育を計画的に推進するとともに、「子供たちの命は私たちが守る」という教職員の危機管理意識を高めることで、安全教育と安全管理が連携した学校安全を組織的に展開し、安全・安心な学校の実現を図ること。
- (2) 全ての教職員が、学校安全計画に基づき、安全教育の充実を図るとともに、児童の安全を最優先に考え、通学路の安全確認や学習活動の安全管理の徹底、避難訓練などを確実に実施すること。
- (3) 学習活動による様々な安全リスクを想定したきめ細かい指導計画を立てるとともに、緊急時における教職員の連絡体制の周知徹底を図ること。
- (4) 食物アレルギーの対応など、個に応じた安全な給食の提供を実現するため、家庭や関係機関との綿密な連携を図ること。
- (5) いじめは、どの学校、学級でも起こり得ることであるとの認識のもと、確かな児童理解に基づく学級経営を展開するとともに、教職員間の情報の共有化を図ることにより、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応を徹底すること。

#### 5 人材育成の推進

- (1) 教職員一人一人の思いや願いを大切にし、認め、引き出し、支え、励ます姿勢を基本としたコミュニケーションを図ること。
- (2) 職を基盤とした分掌・業務分担により、円滑で効率的な意思決定と組織的な業務遂行を図ること。
- (3) 教職員一人一人のアイデアを尊重し、失敗を恐れずまずは行動することを奨励し、新たな教育活動に挑戦していく機運を組織内に醸成すること。
- (4) 将来の管理職を育成するため、教職員に可能な限り分掌を任せ、組織的にやり遂げ

- る成功経験を積み重ねていくことで、ミドルリーダーとしての自信につなげること。
- (5) 管理職による授業観察を日常化し、教員一人一人の良さや成長を見取っていくこと。
  - (6) 自己啓発が専門性向上の基本であることから、特に教科研究に関わる情報を積極的の提供し、研究会、研修会への参加を後押しすること。
  - (7) 一日の授業時間の中で重点授業を一単位時間設定するとともに、週の指導計画の中で重点教科を位置付けるなど、メリハリある教材研究を推奨することで、教育の質を高めること。
  - (8) 全ての教員が学習指導案を作成し、授業を公開する機会を年間で一回以上確保すること。

## 6 中・長期的な展望

教科指導と生活指導は分離されているものではなく、一体として指導されるものであることを鑑み、今後は、特定の教科指導の研究を深めていくことを学校経営の柱としていく。

とりわけ「社会科」は、各教科で育成された知識・技能を総合的に発揮できること、また、問題解決的な学習により指導計画を立てること、環境教育や国際理解教育、伝統文化理解教育などの「〇〇教育」に柔軟に対応できること、人々の願いや思いなど人の生き方に迫る教材があること、地域理解と地域教材の開発が重視されることなどの特徴を持ち合わせているため、校内研究の有力な候補の一つとなり得る。児童のよさを多面的・多角的に認めることができる「社会科」の授業づくりをとおして、日本橋小学校の学習環境の安定化を図っていく。